

みる つくる  
かたる

2009



VOL.36

(通巻98号)

ART NEWS 千葉県立美術館報

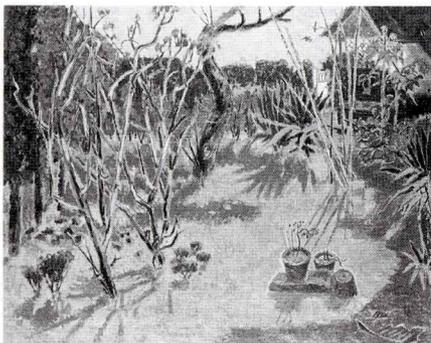
## 企画展「櫻田精一展」

生誕100年 —響きあう光・水・風を描く—  
平成21年11月28日(土)～平成22年1月24日(日)

休館日 毎週月曜日  
(平成22年1月11日(月)は開館し、翌日休館)  
年末年始 平成21年12月28日(月)～平成22年1月4日(月)  
開館時間 9:00～16:30  
入場料 一般500円(400円)  
高大生250円(200円)  
中学生以下・65歳以上は無料

( )内は20名以上の団体料金  
※詳しくはお問い合わせください

櫻田精一(1910～1999)は熊本県に生まれ、幼少期から27歳まで韓国で過ごしました。絵を始めるきっかけは、師範学校の修学旅行で東京を訪れた際に、画材店に置いてあった油絵の道具に心引かれ購入したことでした。購入した年の夏休みには、絵具を使い切ってしまうほど、熱中したといいます。その頃に描かれた作品は今回展示する「朝靄」です。韓国の風景を水墨画のように描いて、風景画家としての原点を見るようです。



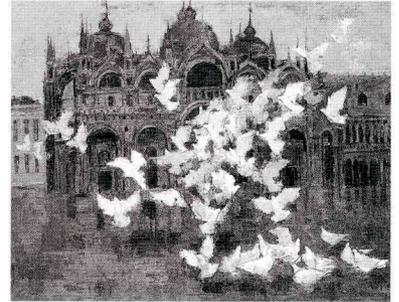
「裏庭早春」1943年作

師範学校卒業後、教職に就きますが、絵を本格的に学びたいと休職して日本美術学校西洋画科に編入します。美校を卒業後、教職に復帰しま

すが、画家への志を断ち切れず退職して昭和14年に韓国から東京へ移り住みます。

昭和18年の第30回光風会展に「裏庭早春」を出品し、F氏奨励賞を受けました。この頃、母校の恩師荒城季夫の紹介で小糸源太郎を知り、師事するようになります。当時、小糸源太郎は、帝展で特選をとり官展での活躍を期待され、光風会の中心画家の一人となっていました。

小糸の作風は黄色と紫色が特徴的でしたが、櫻田はその色を使うことは無く、自分の好みの色にこだわり、小糸作品の内面にある詩情やマチエールの厚さ、省略と造形性を学んでいきます。



「サンマルコの鳩」1972年作

昭和32年に約1年間欧州に渡り、各地の美術館・史跡を巡り、そこでの写生をもとに作品を制作しました。帰国後、この時の体験から鳩をテーマにした作品を制作し「鳩の画家」と呼ばれ、鳩に自分の心の内を託した詩情豊かな風景画を描きました。

櫻田の作品は、滋味で落ち着きのある抑えた色彩に特徴があり、モチーフには、古くからある土塀や目立たない池など普通の人が見つげだすことがないような場所が選ばれています。昭和62年に小山敬三美術賞を受賞し



「樹影」1996年作 熊本県立美術館蔵

た「樹影」は、法隆寺にある弁天池と名づけられた池を描いていますが、櫻田自身この作品を描いた後に再度訪れた時には自分が描いたにもかかわらずこの池がすぐにはわからなかったといいます。一瞬、現われた池に映る木々の影と光を反射する水面の美しさを櫻田が機を逃さず感知したのです。大づかみな筆致で、微妙な色は何層にも重ねられ、静かにゆれる水面と木陰からはゆっくりと時間が流れていくような空間が生み出されています。この作品に代表されるように、ベルギーのブルージュ、古都奈良、永年住んでいた野田近郊の湿地などをモチーフの中心として、櫻田の美意識によって叙情的な空気感ある風景画が生み出されていきました。

(学芸課 石崎千津子)

## 企画展「櫻田精一展」生誕100年—響きあう光・水・風を描く— 関連事業

櫻田精一の芸術をさらに深く理解していただくため、講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを企画しました。申込みが必要なイベントは、お早めにお申し込みください。

### 美術講演会

日展、日洋展等で活躍し、櫻田精一と交流があった塗師祥一郎氏から櫻田の足跡とその魅力についてお話をうかがいます。

日時 平成21年12月19日(土) 14:00～  
会場 千葉県立美術館 講堂 定員200名  
演題 櫻田精一を語る  
講師 塗師祥一郎氏(洋画家・日本藝術院会員)  
参加方法 申込は必要ありません。参加費無料です。直接会場へお越しください。

### ギャラリートーク

会期中、2回実施します。第1回は、当館職員、第2回は、櫻田精一氏の長女、櫻田久美氏を講師に迎えて開催します。

第1回 平成21年11月28日(土) 13:00～  
講師 当館学芸員  
第2回 平成22年1月9日(土) 13:00～  
講師 櫻田久美氏(洋画家)  
参加方法 申込は必要ありませんが、会場への入場料が必要になります。「櫻田精一展」会場にお越しください

### 企画展関連ワークショップ

#### 企画展スペシャル

#### 櫻田精一の世界 —はと・鳩・ハート—

企画展「櫻田精一展」を鑑賞後、櫻田精一がモチーフとして好んで描いた鳩にちなみ、創作体験を行います。

参加者の心を託した紙の鳩を作り、作品から飛び立たせ、美術館の内外に放ちます。

日時 平成22年1月16日(土) 13:00～  
場所 第6展示室 参加費 1,000円  
対象 小学校3年生～中学生 30人  
参加方法 事前申し込みです。複数でのお申込みもできます。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。詳しくは※申込方法をご覧ください。

申込締切日 平成22年1月7日(木)



## これから行われる実技講座のご案内

参加ご希望の方は、※申込方法をご覧ください。

### ◆金工講座

銅板をたたいてコップの形を作ります。  
講師 平山記通氏(金工作家)  
日程 1/20(水)、21(木)、26(火)、28(木)、29(金)、  
2/2(火)、4(木)の7日間  
時間 12:30～16:00 定員15名  
費用 14,000円(材料費込み)  
申込締切日 平成21年12月24日(木)

#### ※申込方法(ワークショップ・実技講座)

事前申込みになります。往復葉書にワークショップ・実技講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、学校名、学年(年齢)、電話番号を明記の上、〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 千葉県立美術館普及課宛てにお申し込みください。

なお往復葉書の返信宛名面には、ご自分の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

複数名でのお申し込みもできます。その場合は、参加者全員の氏名を明記してください。

### ◆篆刻講座

篆刻の歴史や基本的な技法、用具の扱い方などを学んだのち、自分で印を作ります。

講師 那須大卿氏(書家・篆刻家)  
日程 2/9(火)、12(金)、16(火)、19(金)、23(火)、  
26(金)の7日間  
時間 12:30～16:00 定員20名  
費用 10,000円(材料費込み)  
申込締切日 平成22年1月19日(火)



篆刻講座制作風景

## 平成21年度「アート・コレクション展」

1月からのご案内

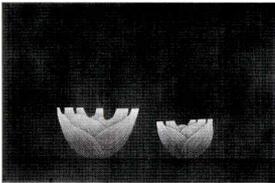
アート・コレクションでは、ほぼ年間を通して「浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派」を展示し、浅井忠やフォンタネージをはじめ、ミレー、コロー、ルソー、ディアズなどの作品を紹介しています。

また、エッチング、メゾチントなどの技法によるモノクロームの銅版画、油彩、パステル、コンテなどで描かれた鶴田吾郎の洋画を展示します。さらに、例年この時期にご紹介している本館の収蔵品より代表的な作品50点を選定した「コレクション50」では、その中から約20点の作品を紹介します。

### アート・コレクション モノクロームの版画

平成22年1月30日(土)～4月25日(日)

【第3展示室】



浜口陽三〈ういきょう〉



生田宏司〈風〉

第2次世界大戦後、急速に国際化する日本美術のなかで注目されるのは、海外で日本人の現代版画が高く評価されたことです。1950年代、日本の作家たちが海外の国際美術展へ出品するようになった頃、銅版画家の浜口陽三は戦後新設されたサンパウロ・ビエンナーレ展で国際版画部門の大賞を受け、銅版画は注目を集めました。この現代版画の萌芽期に銅版画という一つの部門において、浜口が果たした国際的役割はきわめて大きかったといえます。

銅版画の技術は、エッチング、アクアチントなどの腐蝕法によるものと、ドライポイント、メゾチントなどの直刻法によるものの二種に大別されます。

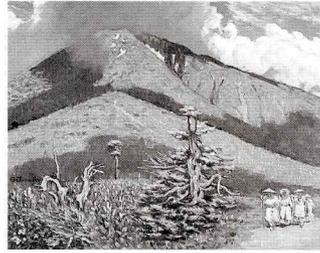
本展示では、こうした銅版画の多彩な技法で制作された浜口陽三、深沢幸雄の作品を主に、生田宏司、池田良二、瑛九、多賀新、利渉重雄、牛玖健治、山下哲郎らの作品や、野田哲也のシルクスクリーンと木版画による作品などモノクロームの版画約40点を紹介します。

モノクロームにこめられた作家一人ひとりの表現をご覧ください。

### アート・コレクション 鶴田吾郎

平成22年1月30日(土)～4月11日(日)

【第8展示室】



〈お山の鈴音〉



〈網うつ男〉

明治23(1890)年、東京に生まれた鶴田吾郎は、白馬会研究所、太平洋画会研究所で洋画を学び画家を志しました。青年時代に経験した朝鮮、満州、シベリアへの旅は、その後の鶴田の生き方に影響を与え、画業65年間の大半を写生の旅に費やしました。

「旅の画家」ともいわれた鶴田の旅の足跡は、北は樺太、北海道から南は九州までの日本全国に及んだばかりではなく、中国、蒙古、北欧、南欧、インド、東南アジアにまでまたがります。各地で出会った絵心を動かすものすべて、風景、静物、肖像、動物などをモチーフとして現地で即戦即決の着実なデッサンに励み、的確で迅速なスケッチに専念しながら、写生行脚を行いました。また、太平洋戦争中は従軍画家として取材を重ね、多くの戦争記録画を描きました。日展会員・日本山林美術協会の代表を務め、激動の時代を旅の画家として貫きました。

本展示では、山岳風景や人々の生活などを題材に描いた鶴田の油彩画・パステル画の作品を紹介します。

### アート・セレクション「コレクション50より」

平成22年1月30日(土)～4月11日(日)

【第1展示室】



ルノワール〈少女像〉



高村光太郎〈手〉

### アート・コレクション 浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派

平成22年1月30日(土)～4月11日(日)

【第2展示室】

## 美術館と学校の連携事業2009・・・

### ◆高校生対象 美術館講座



生徒によるギャラリートーク風景

当館では、高等学校と連携した美術館講座を開催しています。今年度は4月から半年間、70時間にわたり幕張総合高等学校の9名の生徒が本館で学芸員の仕事を体験しました。

同校との連携は2年目で、土日や夏休み期間中に講座を開催しましたが、皆、熱心に取り組みました。

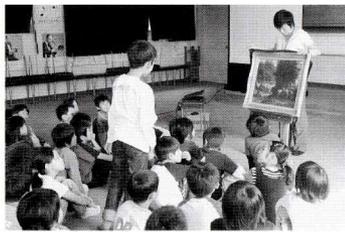
生徒が自ら選んだ作品で展覧会を開催し、来館者の前で作品解説を行うことが最終的な目標でした。

展覧会の企画では、展覧会のタイトルを考え、作家や作品について調査してキャプション原稿を執筆し、作品の配置を決め、作品を実際に展示する作業をしました。またチラシやポスターの作成や宣伝活動も行いました。

ほかにも子ども対象のワークショップにスタッフとして参加し、幼い子供達と過ごす時間を持ちました。

最終日のギャラリートークでは50名ほどの来館者を前に、生徒が半年間の研究の成果を、各自思いを込めて熱弁する姿が印象的でした。

### ◆小学生対象 出前授業(出張鑑賞授業)



出前授業で発表している児童

「自然がいっぱい、写真みたい!」「少しだけ空が見える。夕方かな。オレンジ色が見えて、そんな気がする。」「私は朝だと思った。青とオレンジ色と、朝の空にも見えるから。」「この人は、なぜこういう絵を描いたんだろう。」

これらは、ある学校の4学年の児童たちが作品を見て発した言葉です。子供達の前にあるのは、150年ほど前に描かれたミレーの「垣根に沿って草を食む羊」の複製画です。

学校現場の先生方には子供達に「美術館の雰囲気や作品の持つ存在感にふれさせたい」「作品を間近でじっくりと見せたい」等の思いがありながらも、なかなか美術館に児童生徒を連れてくることは難しいようです。

そこで、要望が出された学校に美術館職員が赴き、収蔵作品の複製画やパネル・画像データなどを用いて鑑賞活動を案内しました。立派な額縁に入った複製画は、子供達にとっては本物同様の存在感があるようで、被い布をとる時にはいつもどよめきが起こります。また、拡大した作品画像をじっくり見ると、たくさん発見があるようでした。先生方とあらかじめ鑑賞活動のイメージについて話し合い、学年・生徒数・日程・目的等を考慮し内容を検討しました。今年度は4校を会場に14回実施しました。美術館職員も、子供達の言葉はとっさせられることが多く、大変勉強になりました。

### ◆教師対象 教師のためのアートガイダンス

美術館をもっと学校教育に活用してもらうため、学校の先生方を対象に研修を実施しました。夏休みに入って間もない7月下旬の一日、同じ内容で午前と午後の2回行いました。

まず、全体会で美術館と学校の連携に関わる普及事業の紹介を行いました。初めて参加された方からは「こんなこともやっているんですか。」という声。その後、鑑賞指導・創作体験のコースに分かれました。鑑賞指導コースでは、館内バックヤードの見学の後、実際の鑑賞の場面について作品を

見ながら実践を交えて検討しました。創作体験コースではワークショップで扱った題材を紹介しています。こちらは、リピーターが多く教材研究に役立っているようです。

募集定員80名のところ、105名の応募があり、当日の参加者数は91名となり盛況でした。



2枚のガラスを使った砂絵の体験中

### ◆大学生対象 博物館実習

博物館学芸員を目指す7大学7名の大学生が、7月29日から8月3日までの6日間、当館で実務実習を体験しました。

実習では、作品の取り扱い方や調書の作成、作品の展示等の展示業務をはじめ、広報やワークショップ準備などの普及事業まで多彩なカリキュラムに参加し、大学で学んだ経験を活用、確認するとともに、初めての経験に挑戦していました。実習生は、美術館や学芸員に対する認識を深め、決意を新たにしようでした。

### ◆高校生による サマーコンサート

県立千葉女子高等学校オーケストラ部約90名の生徒によるコンサートを夏休み中の7月25日に開催しました。



曲目は、ビゼーの「カルメン～前奏曲・闘牛士」、ロイド・ウェバーの「オペラ座の怪人」、久石譲の「となりのトトロ」より「散歩」などの親しみやすい名曲でした。コンサートは午後2時からと3時からの2部制として、途中、登場した楽器とその音色の紹介もあり、和やかなひとときとなりました。

当日は、子どもたちの作品の展示もあり、幼児から年配の方まで約450名の来館者が熱心に聞き入っていました。

### 利用案内

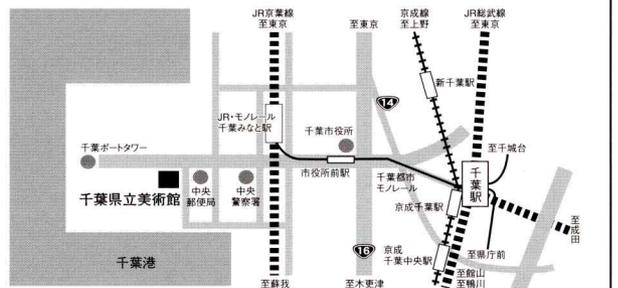
開館時間 午前9時～午後4時30分

常設展 一般 300円 高校・大学生 150円

企画展「櫻田精一展」 一般 500円 高校・大学生 250円

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方(介護者含む)は無料です。

### 交通



JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと駅」下車徒歩10分  
 〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」I.Cから約20分  
 〈成田方面から〉東関東自動車道「千葉北」I.Cから約25分

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県立美術館報「みるかたるつくる」VOL36(通巻98号)

2009年11月15日発行